

平成30年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 森づくり課

担当名: 森林活動支援、総務・森林企画

内線: 4301

(単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B42	里山・平地林再生事業			一般会計	農林水産業費	林業費	造林対策費	里山・平地林再生事業費	
事業期間	平成28年度～平成31年度	根拠法令	彩の国みどりの基金条例			宣言項目			
						分野施策	051245 みどりの保全と再生		
1 事業の概要				5 事業説明					
<p>放置された里山・平地林を再生し、景観の向上や生物多様性の保全など、公益的機能の高度発揮を図るとともに、新たに森林を造成し、憩いの場を創造するなど、森林に関する意識の醸成を図る。</p> <p>(1) 里山平地林の再生 △29,287千円 (2) 本多静六博士の森づくり △5,477千円</p>				<p>(1) 事業内容 県民にとって身近な緑である里山・平地林において、手入れがされず放置された森林の整備・再生を行う。森林が少ない地域で、100年先を見据えた森づくりを行う。 ア 里山・平地林の再生 森林整備面積 158ha 186,577千円 イ 本多静六博士の森づくり 森林整備面積 2ha 7,138千円</p> <p>(2) 事業計画 ア 里山・平地林の再生 平成28～31年度の4年間で592haの森林の再生 イ 本多静六博士の森づくり 平成28～31年度の4年間で8haの森づくり</p> <p>(3) 事業効果 里山・平地林を整備、再生することにより、森林植生が回復し、生物多様性の保全などの森林の持つ多面的機能の高度発揮が図られる。 また、森林内の見通しが改善され、景観や環境の保全、地域の防犯、利用者や住民の安全性の向上が図られる。憩いの場や自然体験の場としての活用が図られ、身近な緑や森林づくりの重要性について県民の理解が深まる。 年度別の整備面積 ア 平成28年度 126ha、平成29年度 148ha、平成30年度 158ha、平成31年度 159ha(見込) イ 平成28年度 3ha、平成29年度 3ha、平成30年度 2ha、平成31年度 2ha(見込)</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 地域のボランティア団体や自治会、森林所有者との協力・連携により維持管理を行う。 平成28年度からは市町村から団体への補助を導入し、よりきめ細やかな支援を実施する。 職員による森づくり活動への技術・安全指導</p> <p>(5) 補正概要 ア 里山平地林の再生 : 補助金の要望が見込みを下回ったことによる減額 イ 本多静六博士の森づくり : 事業箇所が見込みを下回ったことによる減額</p>					
2 事業主体及び負担区分									
<p>(1) 里山平地林の再生 ア補助金 (県定額) 市町村等 (2) 本多静六博士の森づくり (県10/10)</p>									
3 地方財政措置の状況									
なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員									
9,500千円×4人=38,000千円									
予算額		財源内訳						一般財源	補正後の 予算額
		繰入金							
決定額	△34,764	△34,764						0	158,951
現計額	193,715	193,715						0	